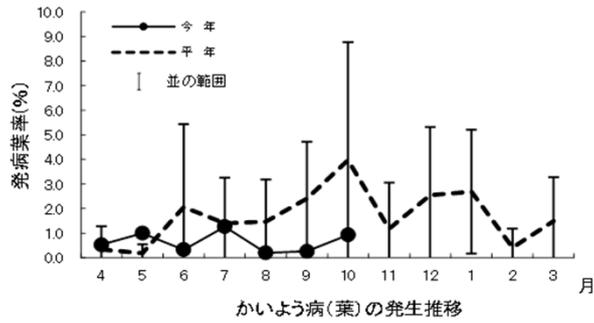


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	台風による風傷の増加、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。		

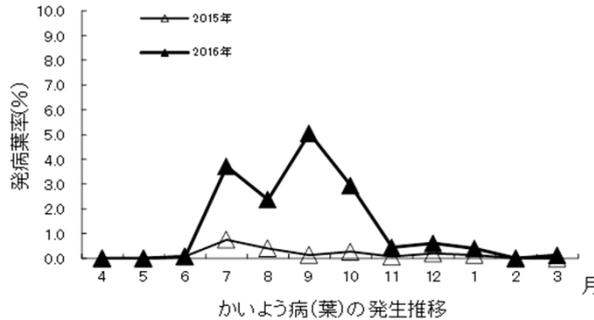
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、発病葉率は1.0%（前年2.9%、平年4.0%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

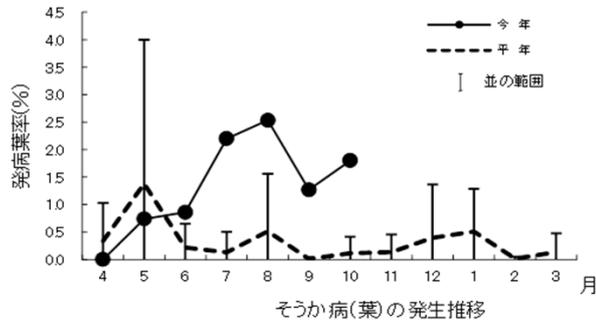
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
10月の発生量（現況）	多		
11月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生葉率の平年の発生推移から、10月より発生量が増加すると考えられる。		

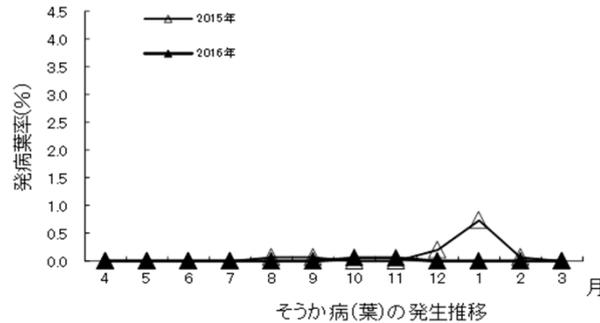
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、発病葉率は1.8%（前年0.1%、平年0.1%）と平年より高かった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

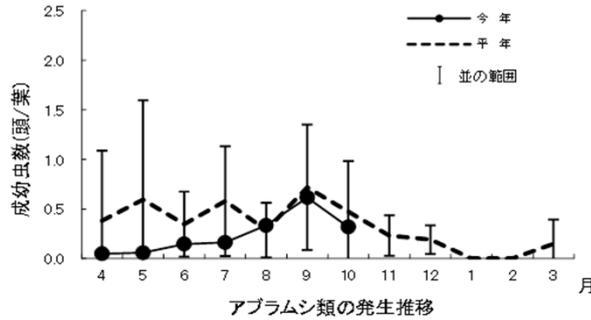
- ・ 罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。		

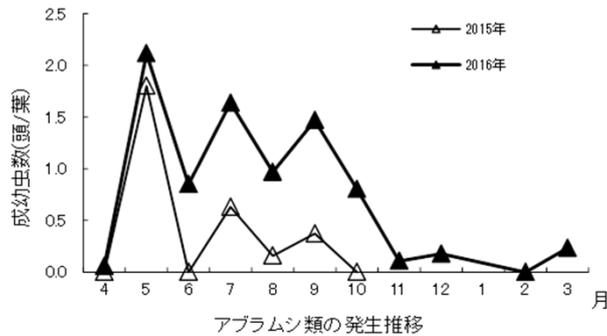
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.3頭（前年0.8頭、平年0.5頭）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。

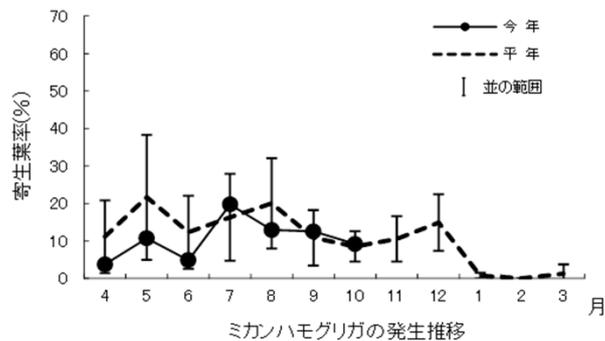


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
10月の発生量（現況）	並		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

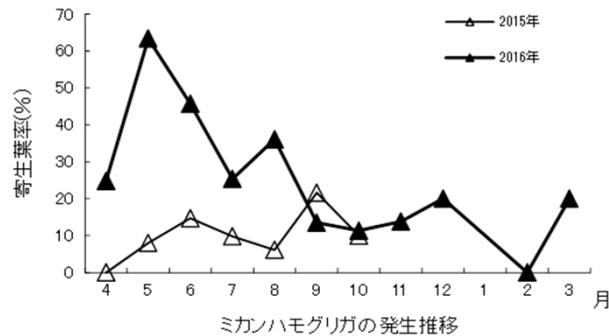
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、寄生葉率は9.2%（前年11.3%、平年8.5%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

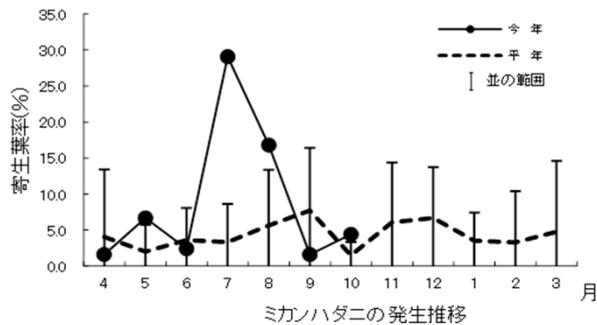
- ・ 本種による食害痕からかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので、被害葉の除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
10月の発生量（現況）	やや多		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月と同程度の発生量と考えられる。		

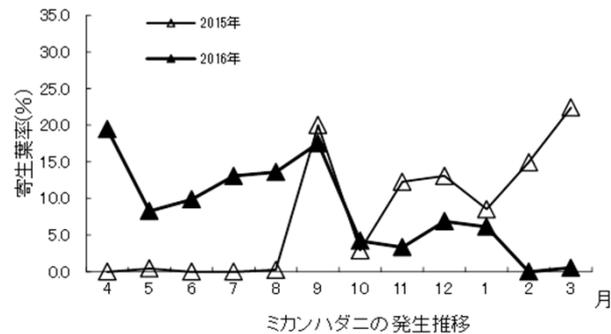
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 10月中旬の調査の結果、寄生葉率は4.4%（前年4.2%、平年1.5%）と平年よりやや高かった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状